

バルコニー用床化粧材

CREGARE 施工手順
[クレガーレ]

この度は、セキスイのバルコニー用床化粧材「クレガーレ」の設置を
ご検討いただき、誠にありがとうございます。
こちらはタイルを設置するための手順の説明書となります。
ご自宅での施工前にご一読ください。

バルコニータイル 積算編

タイルの必要枚数の割り出し方

①バルコニーを採寸する

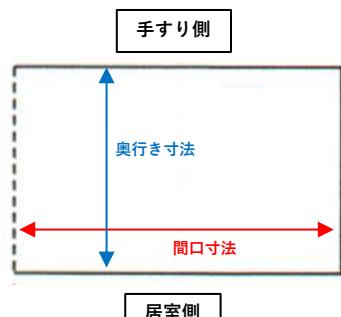
クレガーレの必要枚数を算出するため、
メジャーで間口と奥行きの採寸を行います。

タイルの配置をしやすくするために
下記の採寸例を参考に「基準線（点線）」を
設定してから、採寸してください。

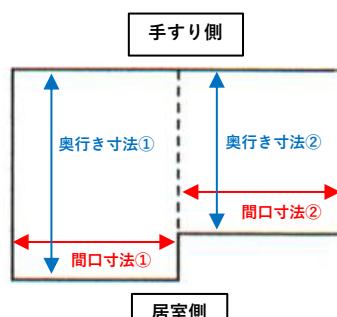
排水溝や雨戸の戸袋、雨桶の落とし口、柱など
障害物についても位置の確認と寸法測定を行います。



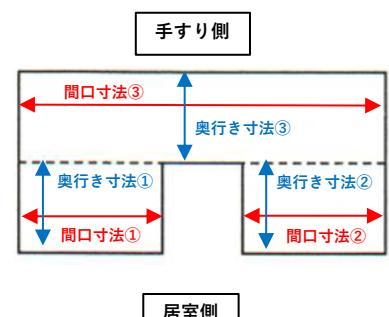
【採寸例 1】



【採寸例 2】



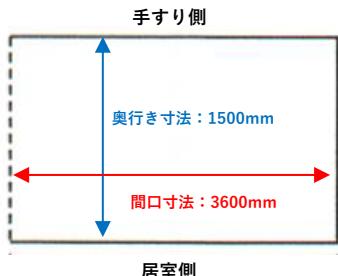
【採寸例 3】



②タイルの枚数を算出する

間口と奥行き寸法の2辺からバルコニータイル（1枚は298×298mm）の必要枚数を算出してください。298mmより小さな端部や障害物のある部分は、幅調整材（1枚は298×149mm）ですき間を埋めて仕上げます。

◎タイルの必要枚数の調べ方

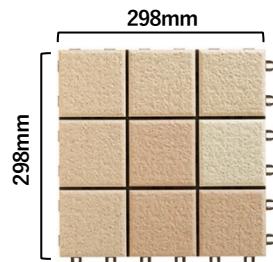
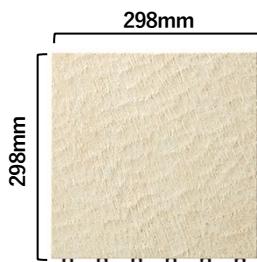


◎間口が3600mm、奥行きが1500mmの場合

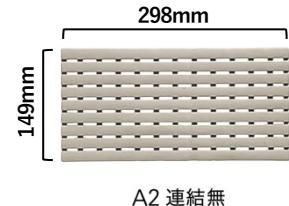
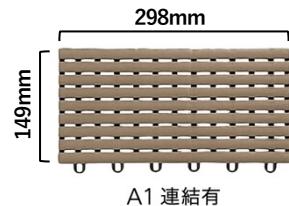
間口… $3600\text{mm} \div 300\text{mm} = 12\text{枚}$
奥行き… $1500\text{mm} \div 300\text{mm} = 5\text{枚}$

必要なタイルは **12×5=60枚** となります。

◎クレガーレ本体



◎幅調整材



クレガーレはどのデザインも 298×298mm で統一されています。



バルコニータイルや調整材の必要枚数を割り出せる
便利なツールもご用意しています。ぜひご利用ください。

バルコニータイル 施工編

バルコニータイル施工の大まかな流れ

1. 必要な道具を準備しよう

5. 端部や障害物のまわりの納め方

2. 施工前にバルコニーを清掃

6. 耐風対策について

3. 仮置きで仕上がりをイメージ

7. 端部カバー材の納め方

4. タイルを連結していく

8. 残材の清掃と点検

1. 必要な道具を準備しよう

施工の前に、以下の工具をご用意してください。

- ◎メジャー
- ◎大型カッター（ネジ固定式）
- ◎プラニッパー
- ◎ゴムハンマー



2. 施工前にバルコニーを清掃

バルコニーの防水面の保護、
施工後のタイルの凹凸防止のため、
必ずバルコニー床面のゴミや
土埃などを取り除いてください。



3. 仮置きで仕上がりをイメージ

クレガーレの種類によっては、タイルの
表面デザインに向きがあるタイプがあります。
連結する前に仮置きして、仕上がりをイメージ
しておくと失敗がありません。

- ◎リンクトーン



◎タイルの柄の向きによる仕上がりの違い



通常施工の場合 (リンクトーン)



市松貼り施工の場合 (リンクトーン)

4. タイルを連結していこう

仮置きで仕上がりのイメージができたら、タイルを実際に連結していきます。



①設置のスタート地点と方向について

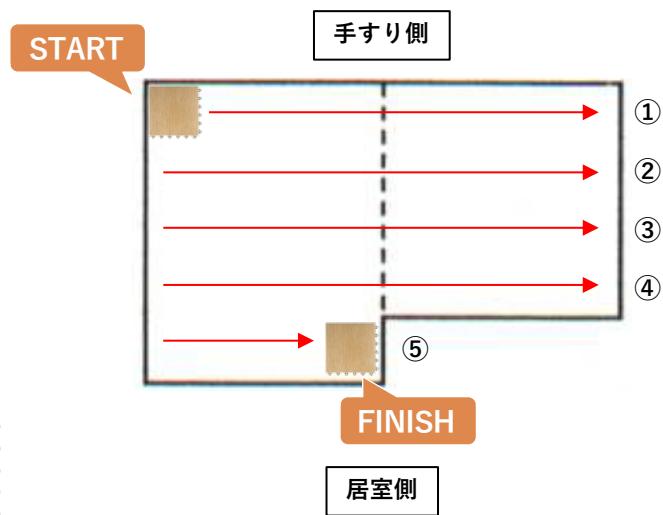
タイルを設置するスタート地点は、図のように手すり側の出隅位置に設定すると簡単に施工できます。

スタート地点のコーナーに沿って、タイルの連結部が無い部分を合わせて、同じ向きで手すりに沿って

①～⑤の順番で連結していきます。



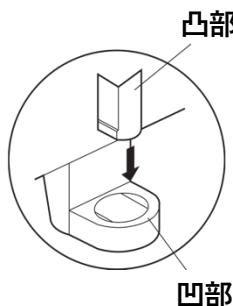
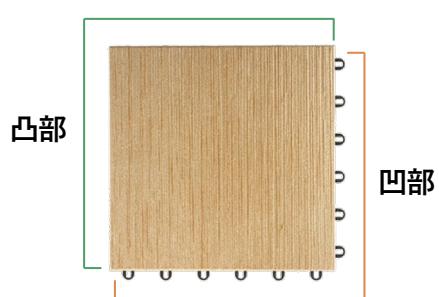
連結しながら進んでいく方向



連結しながら進んでいく方向

②連結の仕方

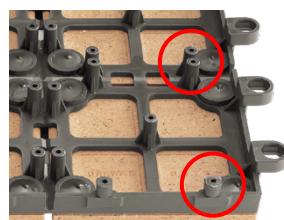
タイルを連結する際は、凸部と凹部の連結部を重ね合わせて、下方向に「パチン」と音がするまで押し込んでください。



タイル同士の連結部を合わせて
ゴムハンマーで軽く叩くと
ラクに連結できます。

③バルコニーの凹凸部分の調整

バルコニー床面に凸部がある場合は、プラニッパーなどで
タイルの足をカットして調整してください（3 mmまで）。
凹みがある場合には、穴埋めなどを行い床面を平らにします。



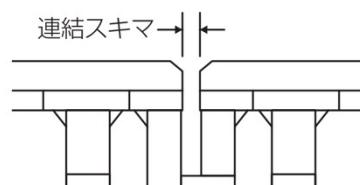
タイルを裏返して床面の凹凸に合わせて
裏足をカットすると、施工後の床面の
ガタツキが抑えられます。

④スキマの調整（熱伸縮対応）

■タイル同士のスキマ

タイルを連結するときは、連結部を詰めすぎず、右図のようにスキマを開けるようにしてください。

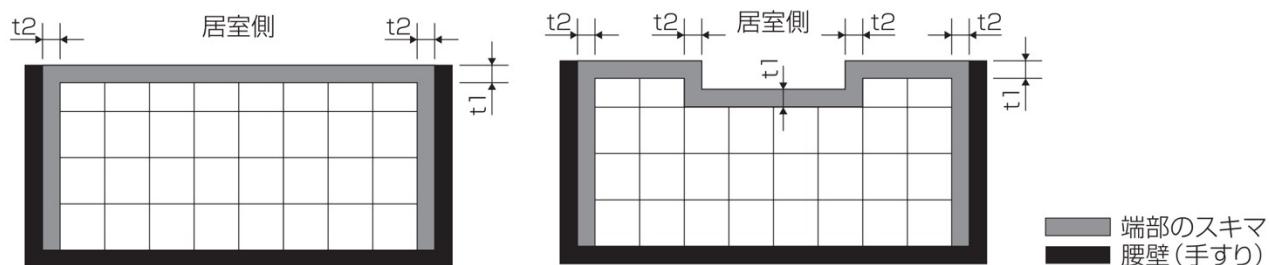
スキマがないとプラスチックの枠が
気温の変化で伸縮し、バルコニー
タイルが盛り上ることがあります。



冬場（気温10度未満）
連結スキマを完全(4mm)に開けてください
その他（気温10度以上）
連結スキマを2mm開けてください

■端部のスキマ

バルコニーの周囲の端部には、下図のように大きめのスキマを開けてください。
片側にすき間を取る場合に6mm、両側でとる場合は3mm必要です。

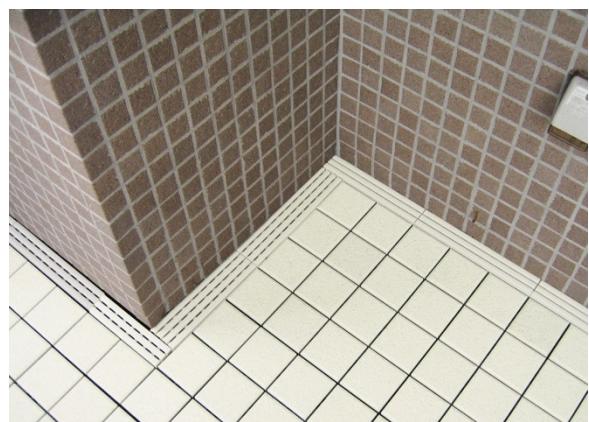


◎片側に周囲のスキマを取る場合 ——— t_1 : 敷設方向 1mあたり 6 mm

◎両側に周囲のスキマを取る場合 ——— t_2 : 敷設方向 1mあたり 3 mm

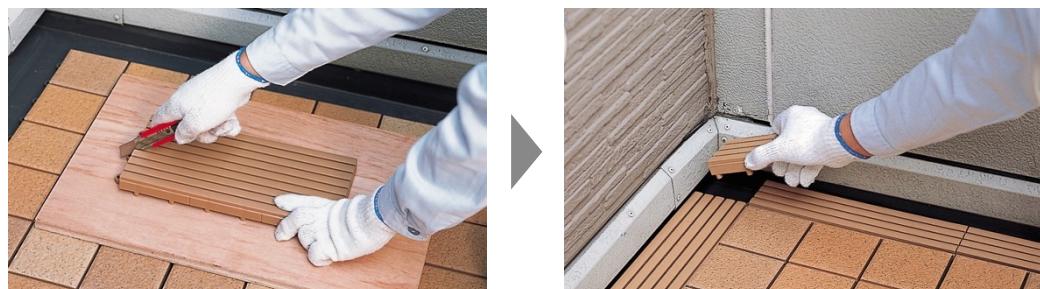
5. 端部や障害物まわりの納め方

端部のすき間や排水パイプ、避難ハッチなど
障害物の周囲は、幅調整材をスキマに合わせて
カットしてはめ込むと美しく仕上がります。

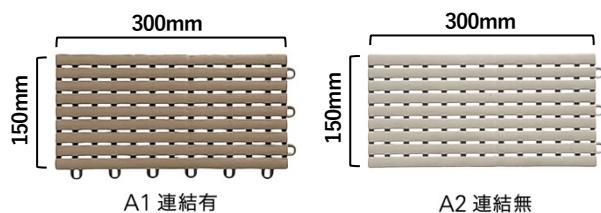


①幅調整材の使い方

幅調整材は溝に沿って、カッターで簡単にカットできます。
余ったスキマに合わせて切断し、スキマを埋めてください。



◎幅調整材



幅調整材は「連結有」「連結無」の2種類が
あります。タイルの連結部の向きや
埋めたいスキマに合わせてお選びください。

②排水パイプのまわりの納め方

排水パイプのサイズに合わせて幅調整材をカットすることで、さらにすっきりと美しく仕上げることができます。



排水パイプの周囲に
スキマを開ける。



排水パイプのサイズに
合わせて幅調整材をカット。



余分なスキマがなく
キレイに仕上がります。

③避難ハッチのまわりの納め方

排水パイプと同様に、避難ハッチの周囲もスキマを開けて幅調整材をカットして納めることができます。

避難ハッチの開閉に影響が
ないように、取っ手部分に
スキマを開けてください。

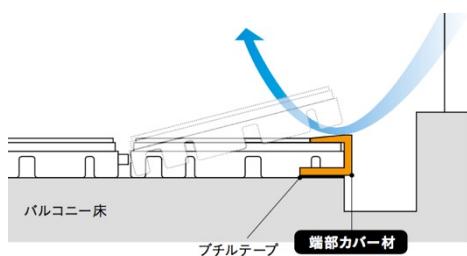


6. 耐風対策について

セキスイでは、強風によるバルコニータイルの飛散を防ぐ端部カバー材をご用意しています。安全のため、次ページの設置条件に合わせた、耐風部材施工をおすすめします。



端部カバー材（別売）



施工したタイルの手すり側にはめ込み、両面プチル
テープで固定することで、手すりから吹き込む強風で
タイルが浮き上がって飛散するのを防ぎます。

■通常の矩形（長方形）バルコニーの場合

通常の腰壁やパネルで覆われた矩形バルコニーは、**1～10階**までは耐風施工は不要です。
11階以上の場合は、強風によるタイルの飛散を防ぐ端部カバー材を設置してください。

◎通常の矩形バルコニー



■風の影響を受けやすいバルコニーの場合

風の通りやすい下記のような形状のバルコニーの場合、施工方法について
当サイトのお問い合わせフォームからお問い合わせください。

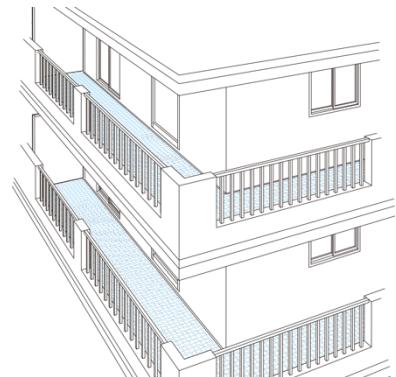
◎ルーフバルコニー



◎格子手すりのバルコニー



◎L字型バルコニー



お問い合わせの際は、お住まいのバルコニーの図面や
写真をお送りいただくと、より詳細なご提案が行えます。

7. 端部カバー材の納め方

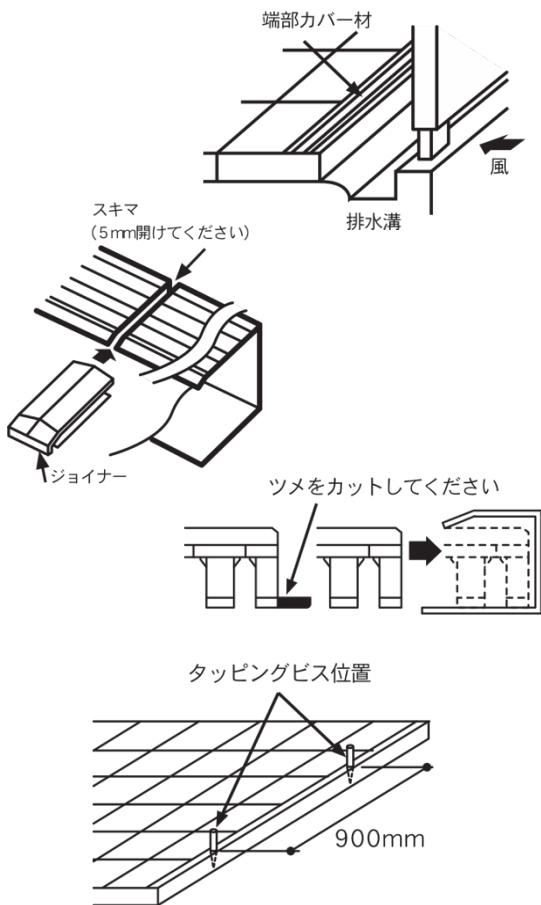
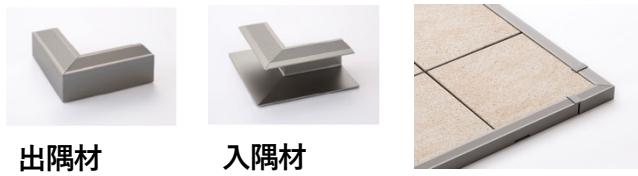
①風の吹き込む手すり側に端部カバー材を仮設置し、寸法調整を行います。

②端部カバー材の裏面のテープ剥離紙をはがして、押さえつけて固定します。

③端部カバー材同士を付属のジョイナーで固定し、連結したタイルを端部カバー材に挿入します。

④タイルが端部カバー材から抜けないように付属のタッピングビスで固定してください。

⑤コーナー部分を別売の「出隅材」「入隅材」で納めると、よりすっきりと美しく仕上がります。



8. 残材の清掃と点検

施工が終わったら、カットした幅調整材の残材などの片付けを行ってください。
残材が残っていると排水口に詰まって、水が流れなくなる恐れがあります。

最後に、

- ◎しっかり連結できているか
- ◎目地は揃っているか
- ◎必要なスキマを取っているか
- ◎タイル表面に凹凸は無いか
- ◎避難ハッチはきちんと開閉するか

などをチェックしておきましょう。

